

## 中学校家庭科における授業研究

智辯学園和歌山中学校：西岡真弓、有田市立保田中学校：北又寿美

那智勝浦町立那智中学校：松本年絵・浜敬子、岸和田市立野村中学校：中内昌恵

和歌山市立紀之川中学校：北村友貴、岬町立岬中学校：大野美鈴、和歌山大学附属中学校：川嶋径代

和歌山大学教育学部：村田順子(研究代表)・今村律子・山本奈美

### 1. はじめに

中学校家庭科教員が授業研究や情報交換を行う場を構築することを目指し、本年度は複数の中学校家庭科教員と個別の取り組みを行い、それぞれの学校の状況や授業等の取り組みなどについて把握した。今後は、和歌山県における家庭科教育の課題を明確にし、県内の教員が協力し合える仕組みづくりにつなげたい。本報では、本年度実施した活動、および 2016 年度より取り組んできた中学校家庭科における高齢者授業実践の成果について報告する。

### 2. 活動報告

1) 2019 年 7 月 29 日（月）東牟婁地方中学校技術・家庭科研究会 実技講習会（家庭科）参加

毎年実施されている実技講習会に衣生活担当教員（今村）が参加し、午後からの情報交換会において、授業に役立つ話題提供を行った。具体的内容は、繊維の鑑別（燃焼実験）と着衣着火・界面活性剤の働きに関する実験・アイロンのかけ方からの授業展開についてである。

2) 2019 年 8 月 26 日（月）岸和田市立野村中学校 学校の現状および家庭科授業の課題等協議

2019 年 11 月 12 日（火）同中学校において授業参観（調理実習）

本年度より共同研究に参加して頂いた岸和田市立野村中学校の家庭科担当・中内教諭と面談し、主に家庭科授業の課題について協議を行った。その後、今後、実習の形態や評価のあり方について検討する際の手がかりとするため調理実習の授業を参観させて頂いた。本年度中にもう 1 回授業参観を予定している。

3) 2019 年 7 月～2020 年 2 月 2020 年度中学校技術・家庭科研究大会・近畿大会（和歌山）における公開授業についての検討会（2019 年 7 月 23 日（火）、12 月 19 日（木）於：和歌山大学）、および授業参観・協議会（2020 年 1 月 30 日（木）於：湯浅中学校・2 月 18 日（火）於：保田中学校）

来年度実施される研究大会での公開授業に向けて、授業担当者の有田市立保田中学校・北又教諭と授業内容の検討を大学において実施した。授業は住生活分野の「高齢者の家庭内事故」の内容で、本学卒業生が作成した「高齢者の家庭内事故を防ごう～住まいの安全すごろく～」を用いて実施する予定である。また、検討中の指導案に基づき湯浅中学校、保田中学校における授業を参観予定である。

4) 2019 年 7 月～2020 年 1 月 高齢者授業実践まとめ

2016 年よりこのテーマで取り組み、授業実践と改善を繰り返しながら授業構成・内容を練り上げてきた。本年は、その成果をまとめ、家庭科教育学会近畿地区会で研究発表を行い、論文にして投稿した。その具体的内容については次項の通りである。

### 3. 高齢者授業実践報告（智辯学園和歌山中学校：西岡真弓）

「2019 年新学習指導要領に対応した「高齢者」授業の創造－衣食住生活の内容と関連づけて－」

2016 年度から中学校家庭科の高齢者授業というテーマで取り組んできた本研究について、これまでに「高齢者」の学習と「衣生活」「住生活」を融合した授業および「高齢者の生き方理解」について中学校および高等学校で実践してきた内容を報告してきた。今年度は、これら一連の授業の評価として 2019 年 1 月～2 月に中学校で実施した授業の成果を報告する。

## 1) 活動の概要

智辯学園和歌山中学校（3 年生）と開智高等学校（1 年生・2 年生）の 2 校で実践した。

また、学部授業「中等家庭科教育法 B」の中で教材開発研究の内容として講義をしたり、実際の授業を学生に見せたりすることで、研究の成果を学生に還元した。

表2 指導計画（全7時間）

表1 2019年1月～2019年11月の活動		表2 指導計画（全7時間）	
年月	内容	小題材名	学習内容
2019年 1月～2月	智辯学園和歌山中学校での実践	1. 高齢者を理解しよう①	高齢者の体と心の特徴を知る
2019年 10月～11月	開智高等学校での実践	2. 高齢者を理解しよう②	高齢者体験をする
2019年 10月～11月	中等家庭科教育法B 実地指導講師	3. 高齢者の衣生活を知らう	高齢者の衣生活問題の原因を考える
		4. 高齢者にふさわしい衣服を考えよう	快適・安全な衣服と心理に及ぼす影響
		5. 高齢者が生き生きと自立するために	活躍する高齢者。高齢者と共に生きる社会
		6. 磯野家をリフォームしよう①	住生活の不自由さや問題点(家庭内事故)
		7. 磯野家をリフォームしよう②	快適・安全に生活できる住まいを考える

## 2) 授業の成果

本授業は、高齢者への理解を深め、より肯定的な受け止め方ができること及び高齢者を身近な存在と感じ、よりよく関わろうとする気持ちを持たせることを目標とした。この目標を実現するために、「身体的理解」、「衣生活」、「生き方」、「住生活」という一連の授業をそれぞれ関連付けながら学ばせる授業構成や、実感を伴った学びにつながる指導法の工夫などを行った。授業後に書かせた「授業前と変わった知識・見方・関わり方」の記述を分類し、集計・考察した結果、生徒に以下の変化が見られた。

①高齢者の生活における不自由さを理解するとともに、生きがいを持って元気に活躍する高齢者が多くいることを知識として得た。②高齢者の身体面や心情を考えて行動しようとするようになった。③身近な高齢者と積極的に関わろうとする気持ちを持つようになった。④高齢者に対して敬意をもち、ともによりよい関係を築こうとする意識が芽生えた。

①、②については、多くの生徒に変化が見られ、③、④は一部の生徒の変化にとどまった。

以上のことから、知識としての理解はおおむねできており、高齢者に対する偏った見方はずい分少なくなったと思われるが、積極的に関わろうとするレベルに至っていない生徒はまだ多くいることが分かった。これらの生徒の意識を少しでも高められるよう、さらに実感を伴った授業を展開していくことが今後の課題である。そのためには、学習指導要領解説技術・家庭編に例示されているように、「協力・協働を視点として、家族関係や高齢者など地域の人々に関わる課題を設定し、その解決方法を話し合う」<sup>1)</sup>など、具体的場面での高齢者との関わりを考えさせるのも一つの方法であると考え。具体的場面については、「衣服の活用と整理」の授業で高齢者のために衣服整理の基準を考える活動<sup>2)</sup>が報告されており、参考にすることができる。

高齢者を肯定的に受け止めることができ、超高齢化社会を高齢者と共によりよく生きていこうとする生徒の育成をめざし、今後も高齢者授業の題材開発に取り組んでいきたい。

## &lt;参考文献&gt;

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 技術・家庭編、77-78. 東京：開隆堂、2018 年
- 2) 横山真智子、渡辺夏海、夫馬佳代子：中学校家庭科における衣服の活用と整理：保有衣服量と環境に対する意識をもとにして、岐阜大学教育学部研究報告：教育実践研究・教師教育研究、20、97-106、2018 年

## 4. おわりに

本共同研究は、和歌山県下および大阪府下の複数の中学校と連携して実施した。本年度は、個別の活動にとどまったが、新たな参加者もあり連携の輪が広がった。距離的・時間的な問題はあるが、今後は家庭科教諭が集まる機会を設定し、情報交換や授業内容の検討を行ったりして家庭科の授業の充実を図っていければと考えている。